

ヒガマツ版 UDLハンドブック

学びのユニバーサルデザインの視点に立った
「わかる」授業づくり

ユニバーサルデザインフォントのススメ

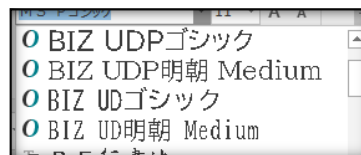
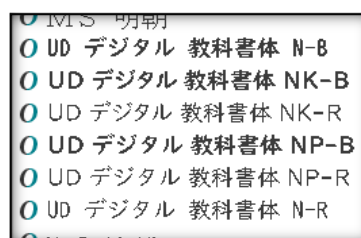
この冊子は、ユニバーサルデザインフォントを用いて作成しました。右のようにフォント名に「UD」と書かれているものがそれにあたります。

○視覚過敏の人にとって…

・MS明朝体は、線が細すぎて見えにくい

→ゴシック体を使う。また明朝体の場合は、「游明朝」や右の「BIZ UD明朝」に切り替える。

ちなみに、ゴシック体のみで書かれた文章は、線が強すぎて疲れてしまう人もいるようです。より多くの生徒にとって「見やすく、読みやすく、間違いにくく、伝わりやすい」プリント・ワークシートにするため、こういったフォントをうまく活用していきましょう。



第一版 2020.4
東松島高等学校

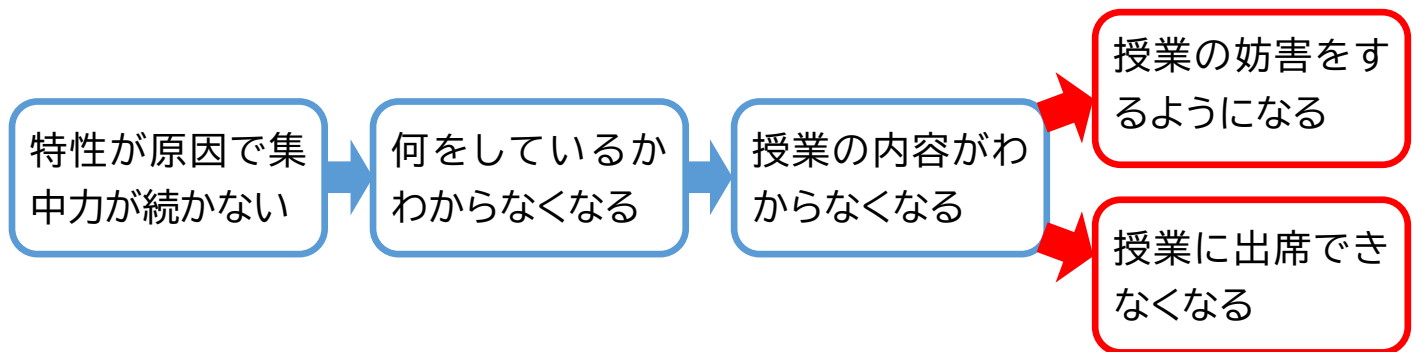
I. 学びのユニバーサルデザイン(UDL)の視点

○ UDLとは何か？

Universal Design for Learning の略。すべての子どもたちを対象に、もらすことなく十分に柔軟性のある学習環境をあらかじめデザインすることであり、すべての子どもたちの教育を改善していくことです。

○ 子どもたちの中には…

さまざまな特性から、「教室にいたくてもいられない」、「授業に臨みたくても臨めない」と感じる子どもたちがいるとしたらどうでしょうか。一例として…



○ UDLの視点とは？

学力差や発達障害の有無にかかわらず、生徒全員が「わかる」「できる」よう工夫・配慮した授業をめざすことです。

○支援の必要な生徒には「ないと困る」 ○その他の生徒には「あると便利」

それが「学びのユニバーサルデザイン」の視点に立った授業改善の工夫です。

【コラム】「わかる」「できる」授業と、教師と生徒のラポート関係のつながり

生徒との信頼関係の構築は、生徒が「わかった」「できた」と感じられる授業にすることが、遠回りのようで実は一番の近道です。授業で信頼関係が構築できれば、学級経営をはじめ、すべての場面における生徒指導の幅が広がります。

ただ、多様な生徒がひとつの教室にいる本校の場合、すべての生徒が「わかる」「できる」授業の実践に難しさを感じることもありますよね。UDLの視点に基づく授業づくりが、それを可能に近づける有効なツールと考え、少しずつ工夫と実践を重ねていきましょう。

II. 発達障害の特性と配慮の観点

○ 発達障害の特性

LD
(限局性学習症)
Ⓐ: 視覚認知が弱い
Ⓑ: 聴覚認知が弱い
Ⓒ: 記憶力が弱い

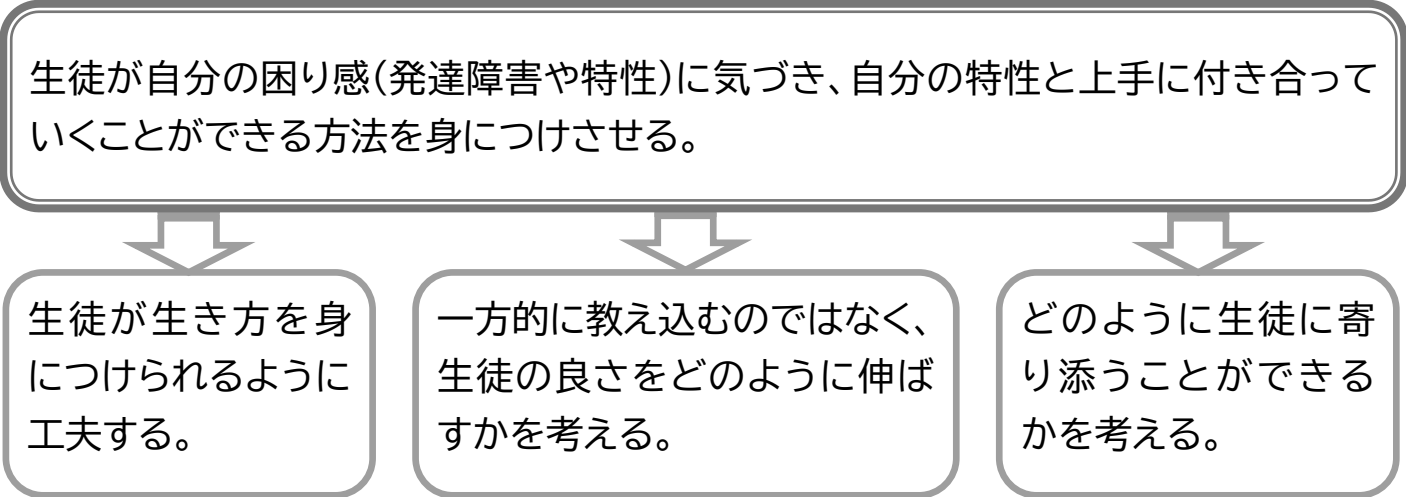
ADHD
(注意欠如・多動症)
Ⓓ: 刺激に弱い
Ⓔ: 注意力が持続しない

ASD
(自閉症スペクトラム症)
Ⓕ: 変化に弱い
Ⓖ: 想像力が乏しい

※学習における「困り感」の表れ方に特化して、彼らの発達特性を記載しています。

【コラム】 最近聞くようになった、DCDと呼ばれる特性とは
○限局性学習症 = LD ○発達性協調運動症 = DCD
実技科目の先生は、ピンとくるのではないのでしょうか。「極端に不器用」「運動がぎこちない」等の特性は、発達性協調運動症(障害)に該当する可能性があります。彼らは、いくつかの別々の動作を1つにまとめる運動に困難さを抱えています。

○ 配慮の観点



【コラム】 発達障害と知的障害の違い
○発達障害 = 発達の質の偏り ○知的障害 = 発達の量の不足
発達障害と知的障害は異なるものですが、発達障害の人の中には知的障害を伴う人が存在します。反対に、発達障害であっても、知的に水準が高い人もいます。

Ⅲ. ヒガマツ版UDLの取り組み

○特性への対応

- L D…△：視覚認知が弱い ▽：聴覚認知が弱い □：記憶力が弱い
ADHD…△：刺激に弱い ▽：注意力が持続しない
A S D…△：変化に弱い □：想像力が弱い

【1. 授業の構造化】

メリハリのある、見通しのある授業

①授業の開始・終了を定刻にする。 <u>□□</u> に対応	②前時の振り返りをする。 <u>□□</u> に対応
③【重点目標】本時の目標を明示し、常に確認できるようにする。 <u>△□▽▽△</u> に対応	④始めに授業の流れを知らせる。 <u>▽▽</u> に対応
⑤課題に取り組む時間を具体的に示す。 <u>▽▽</u> に対応	⑥【重点目標】本時の学習の成果を確認する。 すべてに対応

【2. 指示・発問の工夫】

すべての生徒に声が届くように

①注目させてから話す。 <u>▽▽▽▽</u> に対応	②大きな声ではっきりと話す。 <u>▽▽</u> に対応
③主述を明確にした短い文で話す。 <u>▽□▽▽</u> に対応	④指示は一度に一つにする。 <u>△□▽▽</u> に対応
⑤抽象的な表現を避け、具体的な指示をする。 <u>□▽▽</u> に対応	⑥一つ一つ伝わっているか、確認する。 <u>□▽</u> に対応

【3. 板書・プリントの工夫】

全ての生徒が取り組めるように

①色チョークを使い分けて見やすく書く。 <u>△</u> に対応	②板書の量はポイントを絞って最小限にする。 <u>△□▽</u> に対応
③ノートを取る時間を確保する。 <u>△□▽</u> に対応	④どこに何を書けばいいのかわかりやすく示す。 <u>△▽▽</u> に対応
⑤プリントの空欄は大きくする。 <u>△▽▽</u> に対応	⑥プリントをきちんと保存させる。 <u>▽</u> に対応

【4. 授業への参加を促す工夫】

お互いを尊重できる空間づくりも

①机上に過不足なく必要な教材があるか、確認する。 <u>▽▽</u> に対応	②導入は平易に、スモールステップを進める。 <u>▽</u> に対応
③補助教材(ICT・模型・実物など)を用いる。 すべてに対応	④一斉講義以外の複数の活動を組み合わせる。 <u>▽▽</u> に対応
⑤机間巡視を行い、個別に声がけする。 すべてに対応	⑥肯定的に話し、できたことを意識的に褒める。 すべてに対応

ヒガマツ版UDL 取り組み状況調査(4月・9月・2月実施)

氏名

項目	取り組んでいる	だいたい取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
1. 授業の構造化(メリハリ、見通しのある授業)				
①授業の開始・終了を定刻にする。				
②前時の振り返りをする。				
③本時の目標を明示し、常に確認できるようにする。				
④始めに授業の流れを知らせる。				
⑤課題に取り組む時間を具体的に示す。				
⑥本時の学習の成果を確認する。				
2. 指示・発問の工夫				
①注目させてから話す。				
②大きな声ではっきりと話す。				
③主述を明確にした短い文で話す。				
④指示は一度に一つにする。				
⑤抽象的な表現を避け、具体的な指示をする。				
⑥一つ一つ伝わっているか、確認する。				
3. 板書・プリントの工夫				
①色チョークを使い分けて見やすく書く。				
②板書の量はポイントを絞って最小限にする。				
③ノートを取る時間を確保する。				
④どこに何を書けばいいのか、わかりやすく示す。				
⑤プリントの空欄は大きくする。				
⑥プリントをきちんと保存させる。				
4. 授業への参加を促す工夫				
①机上に過不足なく必要な教材があるか、確認する。				
②導入は平易に、スモールステップで進める。				
③補助教材(ICT・模型・実物など)を用いる。				
④一斉講義以外の複数の活動を組み合わせる。				
⑤机間巡視を行い、個別に声がけする。				
⑥肯定的に話し、できたことを意識的に褒める。				

※年間3回、取り組み状況を確認する教員向けアンケートを実施いたします。「共に学ぶ」最終年は、報告書の作成が伴います。その資料としても活用させていただきます。

○3ページと4ページ、項目は同じです。みなさんは、どちらがより見やすいでしょうか。作成グループ内でも意見は二分しました。自分の見やすさが、そのまま他人の見やすさにはならないことを示す一例です。

◎ヒガマツ版UDLの取り組み 重点目標 その1

1-③ 本時の目標を明示し、常に確認できるようにする。

[方法]本時の目標やねらいを、板書したり、KP法(実践事例参照)を活用して掲示したりして、生徒からよく見える場所に90分間明示しておきましょう。

[ポイント]「～についてわかる」「～できるようになる」など、資質・能力ベースの表現に工夫すると、生徒は取り組みやすくなります。

○対象特性とその効果

LD

認知の特性によるが、聴覚認知や記憶力に弱さを抱えている生徒にとって情報を視覚化することは、授業に取り組むための基礎的支援となる。

ADHD

いったん集中力が途切れてしまっても、明示された本時の目標を確認することによって、みずから授業に復帰できるようになる。

ASD

見通しがないと不安を覚えることがあるが、明示された本時の目標を確認することで、安心して授業に取り組めるようになる。

【コラム】「授業の構造化」との組み合わせで効果アップ

授業の導入時、「本時の目標やねらいを明示する」と同時に、「本時の学習の流れ」を提示することで、支援の必要な生徒に授業全体の見通しを与えることができます。さらにその他の生徒も含め、主体的に授業に取り組める方向に導く手だてになります。なお、「本時の学習の流れ」は、箇条書きや短い言葉で示すと、より効果的です。

○本校における実践事例

板書の代わりに印刷物を貼る、KP法の一例です。

「授業の構造化」の一例です。

本時の内容目標に加え、態度目標を加えた例です。なお、内容目標が今回の重点目標です。

内容目標を板書しています。そのままP.6「学習の成果」の課題にしています。

◎ヒガマツ版UDLの取り組み 重点目標 その2

1-⑥ 本時の学習の成果を確認する。

[方法]授業のまとめの時間に、「ふりかえりシート(リフレクションシート)」や「ふりかえり記入欄」を使って、本時の学習の成果を確認させましょう。ねらいは「メタ認知」させること。「メタ認知」とは、自分の思考や行動を客観的に把握し、認識することです。

[ポイント]時間の始めに明示した、「本時の目標」に取り組ませるのが基本形です。それ以外にも、教科特性に応じた工夫がいろいろありそうです。なお用いるワークシートは、簡単なものでかまいません。以下に示す実践事例やsalのサンプルを参考に、まずは実践してみましょう。

○対象特性とその効果

LD

自己の学習特性の理解に繋がる。特に、記憶力に弱さを抱えている生徒にとっては、知識の定着の手助けになる。

ADHD

「振り返りの時間」を用意することで、学習活動に変化を加えられる。一斉講義型授業が苦手な生徒にとって、主体的な活動の時間になる。

ASD

「振り返りの時間」を設定し、一定のパターンにすることにより、「授業の構造化」に繋がる。見通しが持て、安心して授業に臨めるようになる。

○本校における実践事例

[パターンA] 実施時間:5分程度

令和元年度 【簿記い】

振り返りシート

年次 氏名 _____

月	日	曜日	校時	授業内容	理解度(%)		感想等 (気になった点・楽しかった点・難しかった点等)
					グッド	マイ仔	

次のページに続く

【パターンB】 実施時間:10分程度

月 日 ()

1 数学 I ①

Reflection Sheet

Reflection とは「反省、」の意。
授業の最初に目標を確認 → 最後は今日の学びをしっかりと振り返り、次の活動に生かそう！

■ Question ■

$y = x^2 - 6x + 2$ を平方完成しなさい。

■ Your Answer ■

今日の内容の理解度は？*

分からなかった 😞 1 2 3 4 5 分かった 😊

問題を解くとき、よく考えることはできましたか？*

友人と協力して考えることができ、学習した内容を身につけることができた。

自分なりに考え、理解しようと努力した。

問題を解くことを諦めた。

感謝することはできましたか？*

誰かに手助けしてもらったとき、「ありがとう」を毎回返えることができた。

誰かに手助けしてもらったとき、「ありがとう」を返えられなかった。

「ありがとう」を書き留めなかった。

自由記述*

今日の気づき、考えたこと、自分自身の変化、質問、感想、気づいたこと、授業への感想、授業、先生への感謝など、自由に記入してください。

QRコードを読み取ると…

振り返りフォーム

振り返りは12:00から、それまでではないよ！
学びを振り返り、次の活動に生かしてね。

学籍番号() 氏名()

【パターンC】 実施時間:15分程度

月 日 No.

今日何々何々

◆教科書、周りの人の力を借りながら問題にトライしよう！ 文章・年表・絵・図もOK！ ◆

現代社会

Q 1

Q 2

課題への取り組みは
どうだった？

できたこと！
わかったこと！

わからないところ
もっと知りたいこと

授業内容の感想を書こう！

学籍番号 名前

【コラム】 自分の授業に合う振り返りシート探し

googleなどで検索すると、「振り返りシート」の事例を見つけることができます。また、本校でも複数の先生方が活用しており、ここで紹介した以外にも、サンプルとしてご提供いただきました。「目標の明示」も含め、これらのデータを下記に集約しましたので、適宜修正してお使いください。

¥3al¥6.各種委員会・親睦会フォルダ¥6.特別支援教育委員会¥【活用】ヒガマツ版UDLハンドブック